

農業経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 立岩 壽一

◆学習・教育目標

アメリカ農業政策の歴史と現状を解説し、アメリカ経済における農業政策の意義と社会的受容過程、現代の変容について理解を深め、先進国の農業政策の典型を理論的に解明する。またアメリカを中心とした農業を巡る国際関係を歴史的に解説し、現代経済における国際農業問題の具体的発現過程とその理論的意義を講義する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

現代資本主義 現代的農業問題 国際農業問題史 アメリカ農業政策史
 アメリカ農業政策の現状 現代国際農業問題 国際金融と農業問題 財政と農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	アメリカ農業政策史(第1週～第3週)	アメリカ農業政策を19世紀に遡って理解し、農業政策の特徴がいかに関与されたかを理解する。	本授業のねらいは、農業経済学の理論と分析方法をアメリカを事例として解説しその現代的意味、諸課題を明らかにする。農業経済学特論Ⅰでの研究を基礎に本授業を設定している。教員と院生、院生相互の論議を前提とする。特にテキストをまとめ問題点と課題を考え、常に課題を持ち自ら考え理論化できるようにすることが大切である。
2	アメリカの現代的農業問題(第4週～第5週)	現代アメリカ農業問題の特徴を理解し、輸出国としてのそのあり方を理解する。	
3	国際経済と国際農業問題(第6週～第8週)	アメリカに例をとり、国際経済の動向が輸出国農業問題と密接に関わり、それが国際農業問題として発現する過程を理論的に解明する。	
4	財政と農業問題(第9週～第10週)	先進国の財政問題と農業問題の関係をアメリカを例として解説し、両者の課題を理解する。	
5	アメリカ農業政策の現状(第11週～第12週)	アメリカの現代的農業問題に対応する農業政策の現状を解説し、その特徴を理解する。	
6	現代国際農業問題の諸相(第13週～第15週)	以上の講義を参考にして、現代の先進国における農業問題とその発現の同質性と異質性を理解し、今後の現代国際問題の帰趨を理解する。	
7			

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

「資本主義と農業」(工藤昭彦著、批評社、2009年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

「アメリカ経済社会の二面性」(渋谷・井村・花崎編著、東京大学出版会、2001年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業での報告、積極的な議論への参加度で評価するとともに、テストを実施する。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのみではなくて、自ら現状を分析し理論を創造するという態度で授業に参加して欲しい。